

高性能住宅のカギを握る現場品質

丁寧な施工で 断熱・気密性能を最大化する



松尾設計室 代表
松尾 和也さん

1975 年兵庫県生まれ。1998 年九州大学工学部建築学科卒業（熱環境工学専攻）。エスパイエルホーム、瀬戸本淳建築研究室、プレストを経て、2003 年松尾設計室に入社。

高性能住宅の“潮目”が変わった

——国内の住宅性能の「現在地」についてお聞きたい。

住宅業界の高性能化の流れは、2023 年から 2024 年にかけて完全に“潮目”が変わったと感じています。年間の新築受注が数千棟を超える全国規模のパワービルダーが、断熱基準「HEAT20・G2」、気密性能「C 値 0.5cm³/m³以下」、許容応力度計算ではないものの耐震性能「耐震等級 3」の“3 点セット”を標準化し、不況下にもかかわらず急速に実績を伸ばしています。日本の企業は先陣を切るのは苦手ですが、他の企業がうまくいっているのを見た後に追従する“右へ倣え”は得意です。この 3 点セットがドミノ倒しのように一気に業界に広がっていくと見ています。もちろん、それにより国内の住宅の性能が底上げされるのなら、それは歓迎すべきことです。地域の工務店としても、数年前までトップ・オブ・トップのつくり手の水準だった性能が、もはや“スペシャル”ではなく“メジャー”

となりつつある市場の状況を十分に意識しながら家づくりに取り組むことが必要だと考えています。

本当に暖かくて涼しいか

——今後の住宅市場の動向は。

しばらくは、ある意味で営業的に非常にキャッチーな 3 点セットのみという住宅会社・ビルダーが増殖する状態が続くと予想しています。それにより次は、「果たして本当に省エネで家全体が暖かくて涼しいのか」ということが、より一般的なポイントとして問われてくるはずです。それを実現するためには、日射の取得・遮蔽も織り込んだきちんとした暖房・冷房の計画が必要なのは当然のことですが、何よりも高い精度の現場施工が求められます。全体のレベルが向上すると、競争や差別化のポイントのレベルも上がります。設計性能である 3 点セットが一般化することで、必然的にその先の“体感”やそれを担保する施工品質などに、競争・差別化のポイントが移行していくのではないかと考えています。

建材の開発・製造・輸入・販売を行うエービーシー商会（東京都千代田区）は、簡易型現場発泡ウレタンフォーム「インサルパック」の提供により、工務店の家づくりを高断熱・高气密の側面からバックアップする。法制度や情報の普及などによって住宅の“同質化”が加速し、設計性能による差別化が難しくなるなか、現場の施工品質がカギを握る。以前から工務店に対して「チェックリスト」の導入による施工品質の向上・安定化の必要性を訴えてきた松尾設計室（兵庫県明石市）代表の松尾和也さんに話を聞いた。

「チェックリスト」運用が現場の“モチベ”アップに

——地域の工務店は、どのように対応すべきか。

こうした状況に関係なく、ずっと以前から、工務店に対して設計や現場管理・施工など家づくりのあらゆる工程でのミスを防ぐための「チェックリスト」の導入を訴えてきました。直接、技術支援を行っている工務店には、当社が運用している 500 項目に及ぶチェックリストをそのまま提供しています。本来、何千万円という価格の商品（住宅）の生産者として、厳格なチェック体制を仕組みとして構築・運用するのは当たり前に行わなければならないことのはずです。同時に、性能の“同質化”が進む市場で、こうしたチェックリストに基づくチェック体制があるかないか、つまりは「ちゃんと設計・施工してくれるのか」といった点が、消費者（顧客）がづくり手を選ぶ際に見極めるポイントになっていく可能性は高いと思われます。



プロが選ぶ、断熱補修材の決定版！

厳しい品質基準をクリアした簡易型現場発泡ウレタンフォーム「インサルパック® シリーズ」は、日本の住宅業界でトップシェアを誇ります。幅広いラインアップにより施工箇所や作業にあった商品をお選びいただけます。

チェックリストを適正に運用することにより、ミスを防ぐだけでなく、監督や大工・職人など「より良いものをつくらう。より高い品質を目指そう」という現場のモチベーションが高まります。例えば、現場で気密測定を行う際には、必ず最大風量で回してみ、すき間を見つけたら、すぐに気密テープの増し貼りや簡易型の現場発泡ウレタンによってリカバリーし、すき間をつぶします。やり損ねた部分に発泡ウレタンは最適で、丁寧にすき間を埋めることは性能向上につながる作業になります。気密測定を、単なる現場のルーティン作業ではなく、“貴重な性能向上のチャンス”や“施工品質の

担保装置”に位置づけています。

拡大する リフォーム・リノベーション市場

——今後、地域工務店に必要とされるスキルとは？

既存住宅活用が進み、リフォーム・リノベーション市場が拡大していくと、顧客によって異なる要求に合わせ、性能を臨機応変に変えていけるスキルが求められます。断熱・気密や耐震の性能を確保するのも格段に難易度は上がります。対応できる監督や大工・職人の確保・育成という深刻な問題はあるのですが、新築以上に“現場力”の優位性が発揮される

分野とは言えるでしょう。リフォームで絶対にやるべきこととして①窓の高断熱化②床の断熱補強③給湯器の交換④ユニットバス化⑤天井もしくは屋根の断熱補強—の 5 項目を提唱しています。床下の断熱補強は、床下から現場発泡ウレタンを吹き付けられる場合は、断熱と気密を一度に完了させることができ、その効果は絶大です。天井・屋根の断熱補強に関しても、床下と同じで断熱・気密化を一気にできる現場発泡ウレタンを推奨しています。工務店には、こうしたポイントを押さえながら現場にあわせて臨機応変に対応できる施工技術を磨いてほしいと思います。

断熱材の性能を最大限に引き出す「インサルパック®」

簡易型現場発泡ウレタンフォーム「インサルパック」は高い断熱性・気密性で快適な住空間づくりをサポートします。部材同士の複雑な箇所でも隙間を埋める「丁寧な施工」で、断熱材の性能を 100% 引き出します。

1液タイプ



基礎部分はシロアリ侵入防止の観点から防蟻成分を配合した「防蟻フォーム」での施工がおすすめです。



サッシ周りは、膨らみが少なく、発泡時の圧力が弱い弾性ウレタンフォームである「エラスティックフォーム」が最適です。

ノズルや専用ガンで高い断熱・気密性能が求められる場所で手軽に使用できます。

- 断熱材の隙間充てん
- 取り合い部・貫通部の埋め戻し
- サッシ周りの結露防止
- 建築金物の熱橋対策

丁寧な施工を実現する
発泡ウレタンのコラム



ABC
shokai

株式会社エービーシー商会

インサル事業部 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-12-14 TEL. 03-3507-7390
ショールーム | 東京 TEL. 03-3507-7117 大阪 TEL. 06-6944-4903



〔商品情報〕
インサルパック
シリーズ